

# よってがっしょ福島

## 活動紹介

東日本大震災・原子力災害から15年に向けて、福島では地域の復興と新しい魅力づくりが続いています。柴田ゼミでは、福島の“今”を日本、そして世界へ発信することを目的として「震災復興発信プロジェクト」に取り組んでいます。8月には、実際に福島を訪れ、地元の住民や事業者の方々にインタビューを行い、皆さんの復興への思いや地域の魅力を福島民報社の協力のもと新聞にまとめています。

本プロジェクトの一環として「よってがっしょ福島」は、浜風祭での出店をきっかけに、福島県の特産品から福島の“今”を伝え、多くの方に関心を持っていただきたいと考えています。「よってがっしょ」とは、福島の方で「寄って行こう」「一緒にやろう」という意味を持つ言葉です。その名の通り、福島の人々と学生がつながり、共に歩む思いを込めています。



## 活動を経て

活動を通して、福島を“支援の対象”ではなく、同じ日本で共に生きる“人と人”として捉えることの大切さを学びました。現地の方々の、困難の中でも前を向き挑戦を続ける姿勢に触れ、真の復興とは「支援する・される」という一方通行ではなく、“共に歩む”関係にあると実感しました。

また、新聞制作を通じて、限られた言葉で人々の想いを正確かつ温かく伝える難しさを感じ、「伝えることの責任」と「情報発信の力」を学びました。



## これから

今後は、福島県産のバナナを使ったクラフトビールの開発に挑戦します。株式会社大鵬にご協力いただき、学生の発想と企業の技術を融合させながら進めていきます。さらに、今後のスケジュールとして、日本語版新聞をもとに、11月中旬から12月中旬にかけて英語版新聞を共同通信社の指導のもとで完成させ、世界に発信します。

12月以降は謹呈式の準備に入り、1月下旬には新聞の謹呈式と座談会、そしてクラフトビールのお披露目も予定しています。その後、謹呈式終了後から3月にかけてさらに新聞の発信を行い、私たちが見て・聞いて・感じた福島の“今”をより多くの人に届けていきます。

学生ならではの視点と行動力で、これからも福島の魅力発信と地域とのつながりづくりを続けていきます。

